

# 1. 留学生センター1年の歩み

富山大学留学生センターは、1999年4月に文部省（現在の文部科学省）省令により、学内共同教育研究施設として設置された。2004年に国立大学法人法により国立大学法人となり、2005年10月には富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）、高岡短期大学（高岡キャンパス）の県内3大学が再編・統合されて、新・富山大学になった。

新・富山大学になって改めて3キャンパスから委員が選出され、「富山大学留学生センター運営委員会」においてセンターの管理運営に関する重要事項について審議されている。2007年度は、渡邊信センター長を委員長として、6回の運営委員会が開催され、留学生センター専任教員人事に関わって、「留学生センター教員選考委員会」が設置され教員の公募・選考及び審査が2件なされた。また、「富山大学留学生教育指導連絡会議」を2回開催し、各学部と連携して、留学生に関する情報・意見の交換、収集を行った。

外国人留学生に対する日本語教育と留学生指導・交流活動の業務については、留学生センターが3つのキャンパスの中心になって進める努力を続けているが、大学全体に同じサービスを提供するには至っていない。ここでは、留学生センターの設置されている五福キャンパスに於ける取り組みを中心にまとめてみる。

日本語教育部門では、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コースの3つのコースを開講し、教養教育「日本語」「日本事情」のコーディネートをした。日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、学生の配置がなかったが、次年度に向けての準備として韓国で開催された「日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」に留学生センターからも1人参加した。

留学生センターで開講している日本語コースの学生出欠状況や毎日の授業内容を記録・閲覧できるシステムとして、2005年度に開発導入し、2006年度から本格的に運用を開始し機能拡張を行った「授業記録システム」によって、2007年度も各コースのコーディネーターおよび授業担当者は学習進捗状況を包括的に見渡し、担当教員同士の授業内容の引き継ぎや講師ミーティングなどで有効に用いながら、日々の授業に取り組むことができるようになってきている。

また、「富山大学留学生センター日本語学習支援サイト RAICHO」の活動も、整備を加えながら引き続き行われている。

留学生指導部門では、各種オリエンテーション、交流行事、見学旅行、ホームステイ・ホームビジット、留学生等に対する指導・助言、留学相談のための面談を実施した。

毎週昼休みの活動として、水曜日に「日本語相談」、木曜日に「おしゃべりタイム」をセンターの談話室で開いている。

留学生センター全体の取り組みとしては、11月に第8回教育・研究フォーラム「予備教育の目標を再認識する ―予備教育とスタンダード―」を開催したことが挙げられる。ここでは、アメリカおよび国内から3人の講演者を招き、全国国立大学の留学生センター等からの参加者22人に加えて、財団法人とやま国際センターとの連携の結果、JICA 招へい中国青年日本語教師10人も参加して、合計50人ほどの非常に充実した会となった。

留学生センターは、来年度以降も学内外のニーズに応えつつ、現在行っているいろいろな業務や取り組みをさらに充実し、新たな取り組みを行っていきたい。